

皇室の美術振興

Modern Japanese
Painting, Sculpture &
Decorative Arts

[展示室1]

この秋、尚蔵館で「書の優品」と「御買上」の近代美術が競演！

わを、けあひがしすしししし
さるるるるるるるるるる
銅刀名借る者若き不相ふ事、
つるるるるるるるるるる
さるるるるるるるるるる
須磨屋を、海東塩乃海堂、
あつるるるるるるるるるる

公家の書

Court Calligraphy

**Celebrated Manuscripts by
Legendary Calligraphers**

[展示室2]

古筆・絵巻・古文書

令和6年
※会期中、一部展示替えあり

10
月
29
日
[火]

12
月
22
日
[日]

October 29–
December 22, 2024

*Some exhibits will be changed during the exhibition period.

The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shozokan

皇居三の丸尚蔵館

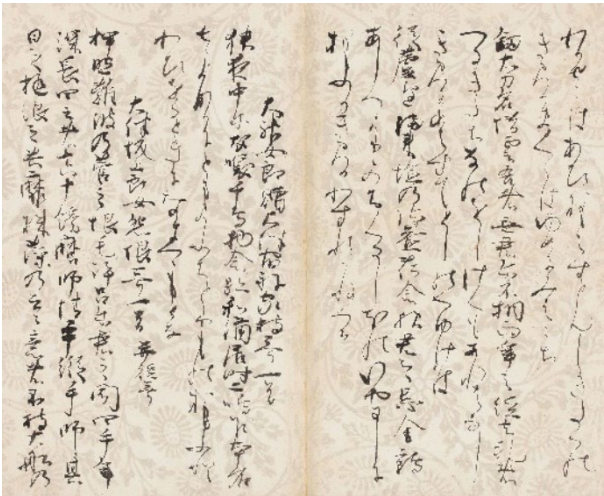


Website
<https://shozokan.nich.go.jp/>



この秋、皇居三の丸尚蔵館で“書の優品”と“御買上”の近代美術が競演！

展覧会「公家の書－古筆・絵巻・古文書」 開催趣旨



公家とは本来、朝廷の官人の総称でしたが、後には天皇をとりまく上層の廷臣、貴族を指す言葉となりました。平安時代以降、藤原摂関家を中心に形成され、独特な風俗・習慣が生まれます。公家の社会で必要とされた教養のひとつが和漢の典籍や詠歌、そして書でした。本展では、公家たちが美しさを求めた名品とともに、実務で作成した書状や文書を紹介します。共通点や目的による違いをお楽しみください。

広報画像 A-1 国宝《金沢本万葉集》巻第四 藤原定信

平安時代(12世紀)【前期巻第二・後期巻第四 各期頁替あり】

展覧会「皇室の美術振興－日本近代の絵画・彫刻・工芸」 開催趣旨

近代以降の皇室は和歌や雅楽などの伝統文化の継承とともに、美術の発展にも努めてきました。本展では、明治から昭和にかけて日本国内で開催された博覧会や展覧会に出品され、皇室による御買上を受けた絵画、彫刻、工芸のなかから、秋の季節を感じさせる作品を中心に紹介します。当時の美術の多彩な様相とともに、近代の皇室が果たした美術振興の一端をご覧ください。



広報画像 B-1

《稲穂に群雀図花瓶》 一對のうち
瀧川惣助、絵付：泉梅一 明治14年(1881)

第2回内国勸業博覧会にて御買上【通期展示】

展覧会の見どころ

1. 展覧会「公家の書－古筆・絵巻・古文書」では、平安時代から江戸時代まで、禁裏(皇室)を支え続けた公家(貴族)たちが書き写した古筆の名品とともに、朝廷の政の実務として作成した古文書や書状等、公家の書のもつ多彩な面が味わえます。
2. 同展では、現存する日本最古の歌集『万葉集』を平安時代に書写した国宝《金沢本万葉集》(前期巻第二・後期巻第四 各期頁替あり)と、鎌倉時代の絵巻の傑作で中世やまと絵を代表する国宝《春日権現験記絵》(前期展示)を公開！
3. 展覧会「皇室の美術振興－日本近代の絵画・彫刻・工芸」では、明治から昭和にかけて、皇室により博覧会や展覧会で御買上となった作品が登場します。各作家の代表作や出世作など優品ぞろいです。開催時期に合わせて、秋をテーマにした作品が多いのも本展の見どころです。
4. 同展では、太田喜二郎《並木道》を宮内省が買上げ後、初公開。大正3年(1914)の東京大正博覧会に出品されて以来、110年ぶりの公開です。

開催概要

名 称	公家の書－古筆・絵巻・古文書／皇室の美術振興－日本近代の絵画・彫刻・工芸 Court Calligraphy: Celebrated Manuscripts by Legendary Calligraphers Imperial Patronage of the Arts: Modern Japanese Painting, Sculpture & Decorative Arts
会 期	2024 年 10 月 29 日(火)～12 月 22 日(日) 前期:10 月 29 日(火)～11 月 24 日(日) 後期:11 月 26 日(火)～12 月 22 日(日)
休 館 日	月曜日(ただし 11 月 4 日は開館し、翌火曜日休館) ※その他諸事情により臨時に休館する場合があります
開 館 時 間	午前 9 時 30 分～午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで) ※ただし 10 月 29 日(火)は午後 1 時開館 毎週金曜・土曜は夜間開館。午後 8 時まで開館。(入館は午後 7 時 30 分まで) ※ただし 11 月 29 日(金)を除く
入 館 料	一般 1,000 円、大学生 500 円 ※高校生以下および満 18 歳未満、満 70 歳以上の方は無料。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、運転免許証、マイナンバーカードなど)をご提示ください。 ※障がい者手帳をお持ちの方およびその介護者 1 名は無料(予約不要)。
作 品 件 数	公家の書－古筆・絵巻・古文書:13 件 皇室の美術振興－日本近代の絵画・彫刻・工芸:25 件 ※出品作品は全て皇居三の丸尚蔵館収蔵
主 催	皇居三の丸尚蔵館
会 場	公家の書－古筆・絵巻・古文書:皇居三の丸尚蔵館 展示室 2 皇室の美術振興－日本近代の絵画・彫刻・工芸:皇居三の丸尚蔵館 展示室 1 (〒100-0001 東京都千代田区千代田1-8 皇居東御苑内)
ウェブサイト S N S	〔展覧会特設ページ〕 https://pr-shozokan.nich.go.jp/2024calligraphy-arts/ 〔公式 Instagram〕 https://www.instagram.com/shozokan_pr/ アカウント名 @shozokan_pr
お問い合わせ	050-5541-8600(ハローダイヤル)
【報道に関するお問い合わせ】 皇居三の丸尚蔵館広報事務局(共同 PR 内) 担当:三井 〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10 階 TEL: 03-6264-2382 E-mail: shozokan-pr@kyodo-pr.co.jp	

皇居三の丸尚蔵館^{しょうぞうかん}について

平成元年(1989)に上皇陛下と^{こうじゆん}香淳皇后により、皇室に代々受け継がれた美術品が国に寄贈されたことを機に、その保存と研究、公開を目的として、平成 5 年(1993)11 月に皇居^{ひがしぎょえん}東御苑内に開館しました。

収蔵品は、各時代を代表する名品が多く含まれており、日本を中心とする東洋の美術工芸品のほか、幅広い時代、地域、分野の品々がみられることが特長です。

施設の拡充をはかり令和元年(2019)からは、新館の建設が進められています。令和 5 年(2023)には管理・運営が宮内庁から独立行政法人国立文化財機構へ移管され、「皇居三の丸尚蔵館」と名称も新たに一部を開館しました。令和 8 年(2026)に全館開館を予定しています。



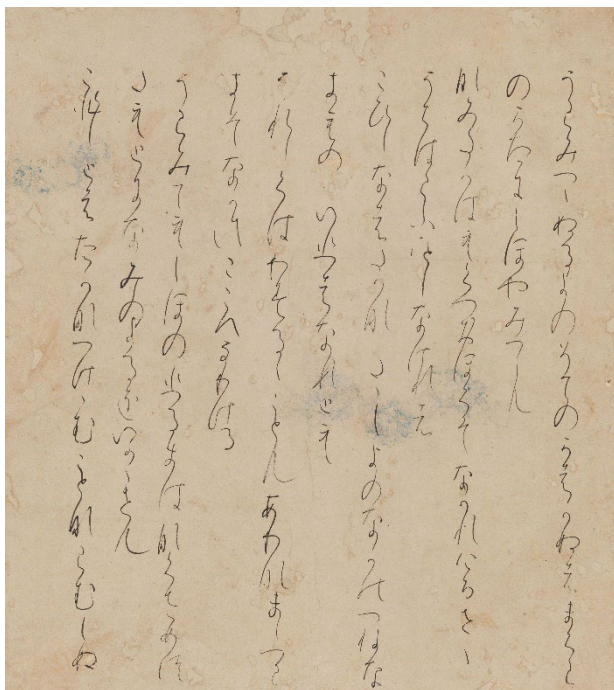
皇居三の丸尚蔵館 外観

主な展示作品 公家の書－古筆・絵巻・古文書



鎌倉時代“最強の公家”西園寺家の栄光を今に伝える

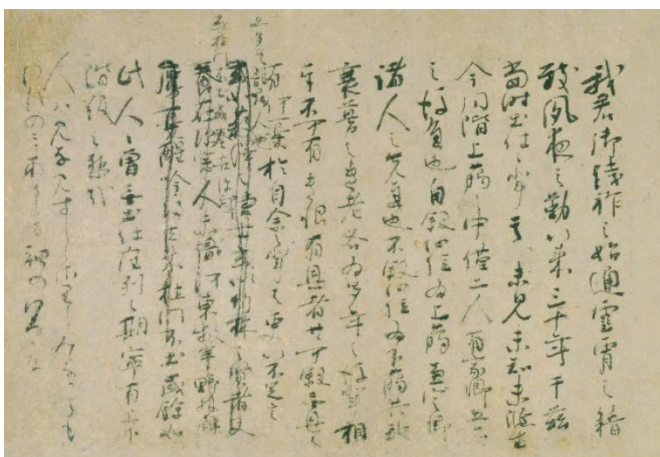
広報画像 A-2 国宝《春日権現験記絵》卷十七(部分) 高階隆兼 絵・一乗院良信 詞 鎌倉時代 延慶2年(1309)頃
【展示期間:10/29～11/24、巻替あり】



清少納言の曾祖父(歌人・清原深養父)が詠んだ
恋の歌

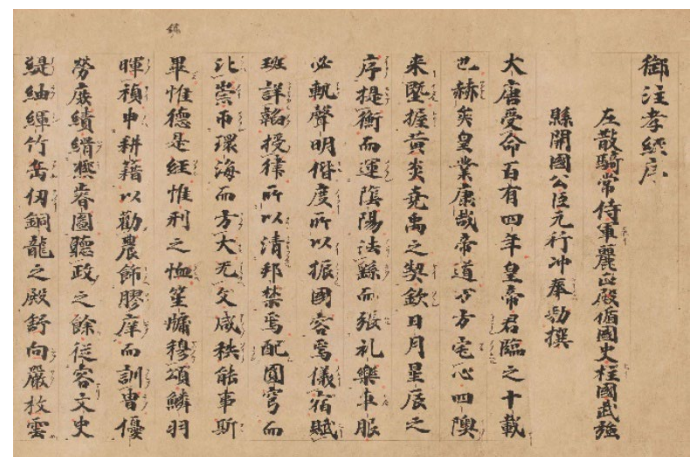
広報画像 A-3 《深養父集断简(名家家集切)》伝
紀貫之

平安時代(11世紀) 【展示期間:10/29～11/24】



歌人・定家も抱いた昇進への執念

広報画像 A-4 《記文案》藤原定家 鎌倉時代(13世紀)
【展示期間:10/29～11/24】



古典籍の書写は未来につながる公家の本領

広報画像 A-5 《御注孝経》(部分) 三条西実隆
室町時代 享禄4年(1531) 【展示期間:11/26～12/22、巻替あり】

主な展示作品 皇室の美術振興－日本近代の絵画・彫刻・工芸



画家の道を ^{ひら} 拓いた大作

広報画像 B-2

《孔雀図》^{くじやくず} 荒木 寛 畝 ^{あらきかん ぼ} 明治 23 年(1890)

第 3 回内国勸業博覧会にて御買上

【展示期間:11/26～12/22】



精緻 ^{せい ち} を極めた 牙彫 ^{げ ちよう} の傑作

広報画像 B-3 《官女置物》^{かんじょおきもの} 旭 玉山 ^{あさひぎよくざん} 明治 34 年(1901)

日本美術協会美術展覧会にて御買上 【展示期間:10/29～11/24】



ベルギー仕込みの印象派

大正 3 年(1914)以来、110 年ぶりに公開

広報画像 B-4 《並木道》^{なみきみち} 太田 喜 二郎 ^{おおた き じろう} 大正 3 年(1914)

東京大正博覧会にて御買上 【通期展示】



美しき信州の山に魅せられて

広報画像 B-5 《秋 晴》^{あきばれ} (左隻) 池上 秀 畝 ^{いけがみしゅう ぼ} 大正 4 年(1915) 文部省第 9 回美術展覧会にて御買上 【展示期間:10/29～

11/24】

※出品作品は全て皇居三の丸尚蔵館収蔵

関連イベント

展示室 de 作品解説

展覧会担当の研究員が、展示作品から数点ピックアップしてお話します。
どの作品の解説が聞けるかは当日のお楽しみ！

- 概要** 開催日時：「公家の書－古筆・絵巻・古文書」：2024年11月1日(金)、12月6日(金)
「皇室の美術振興－日本近代の絵画・彫刻・工芸」：2024年11月8日(金)、12月13日(金)
いずれも午後6時35分～(20分程度)
- 会 場： 皇居三の丸尚蔵館 展示室
- 料 金** 参加申込不要、参加費無料
※ただし当日有効の入館チケットが必要です。

特別鑑賞会（有料・事前予約制）

閉館後の皇居三の丸尚蔵館で、当館研究員による解説付き特別鑑賞会を開催します(20名様限定)。

- 概要** 開催日： 2024年11月29日(金)
開催時間： 午後6時～午後8時(午後5時45分～大手門にて受付開始、入館は午後7時まで)
※ただし研究員による解説は、午後6時～午後7時まで
※解説終了後、自由鑑賞(午後8時最終退館)
- 会 場： 皇居三の丸尚蔵館 展示室
- 定 員： 20名(満18歳以上の方が対象)
- 料 金** 参加費： 5,000円(税込)
- 当日の流れ** 午後5時45分～大手門にて受付開始
午後6時～ 研究員による解説付き特別鑑賞会
午後7時～ 自由鑑賞(最終入館。午後7時以降は入館できません)
午後8時 最終退館
展覧会図録(「公家の書／皇室の美術振興」)1冊をお渡しします。

イベントの詳細は当館公式ウェブサイトをご覧ください。